

「桑F₁系統」による超密植・小型収穫機械が利用できる桑作り

農業研究センター 農産園芸研究所 蚕業部

研究のねらい

本県の養蚕は、作目選択幅の狭い中山間地帯における主要な換金作物として定着しているが、土地生産性が向上せず、省力化も進んでいない。

そこで、生産性の高い多収技術(繭 200kg 以上/10 アール)と省力化技術の開発が望まれている。これらのことから、九州農業試験場で育成され、超密植・機械化に適する「桑F₁系統」を用い、小型収穫機向けの小条径仕立ての桑園、いわゆる新しい仕立ての草本化桑園造成による省力・多収多回育養蚕技術の体系化を試みた。

研究の成果

1. 「桑F₁系統」実生苗による桑園造成

- (1) 「桑F₁系統」は、形質にバラツキが少なく、直立性で条径も小さく機械収穫に適している。
- (2) 栽植距離は、畦間 70cm、株間 20cm (10a 当たり7,000 本)が収穫量および機械収穫上好ましい。
- (3) 夏切と春切の草本化桑園を組み合わせることで、年 7 回の収穫ができ、10a 当たり約 200kg の繭生産が可能である。この収繭量は、慣行収穫体系の約 60 %増となる。

2. 収穫機械の改良

- (1) 稲刈り用バインダー型収穫機の刈刃の厚さ 2mm を 3mm 厚くするとともに、刈刃取付台を拡大補強することで、「桑F₁系統」の超密植桑園の通年機械収穫が可能となった。

表 1 草本化桑園による年7回収穫・飼育体系

単位：kg

飼育蚕期		1回蚕	2回蚕	3回蚕	4回蚕	5回蚕	6回蚕	7回蚕	合計
桑園設定	夏切 10a	2,700			2,300			900	5,900
	夏切 10a	2,900				2,700			5,600
	春切 10a		2,200				3,200		5,400
	春切 10a			2,800				2,600	5,400
飼育箱数(箱)		1.5	0.6	0.8	0.7	0.8	0.9	0.9	6.1
収繭量(kg/箱)		37.5	34	30	30	30	35.5	33	32.9
収繭量kg/10a		56	20	24	20	23	31	29	203



写真1 バインダー型桑収穫機

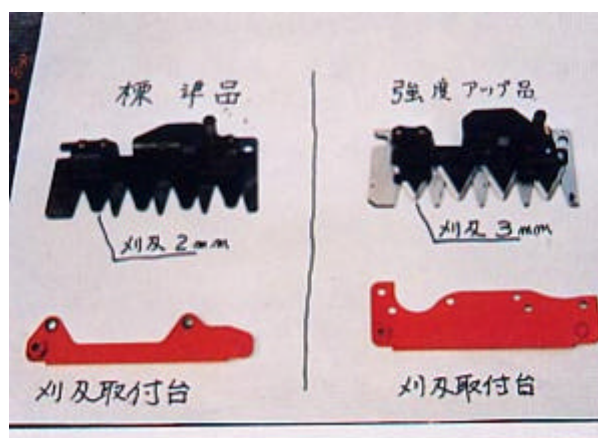


写真2 刈刃部分の改造